

アホウドリ新繁殖地形成事業によるヒナ移送の結果について

<環境省自然環境局 同時発表>

平成 24 年 2 月 11 日(金)
(財)山階鳥類研究所

小笠原群島^{むこじま}鴛島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業として、本日、アホウドリの繁殖地である伊豆諸島鳥島から鴛島まで、ヒナ 15 羽を移送しましたので、お知らせいたします。

本日早朝に、鳥島において移送するヒナ 15 羽を捕獲。研究員が 1 羽ずつ移送用の箱に入れてヘリポートまで背負って運び、ヘリコプターに搭載しました。

ヒナを載せたヘリコプターは、13 時 20 分頃に鳥島を離陸、14 時 41 分頃鴛島に到着しました（鳥島から鴛島は直線距離で 350km 程度）。

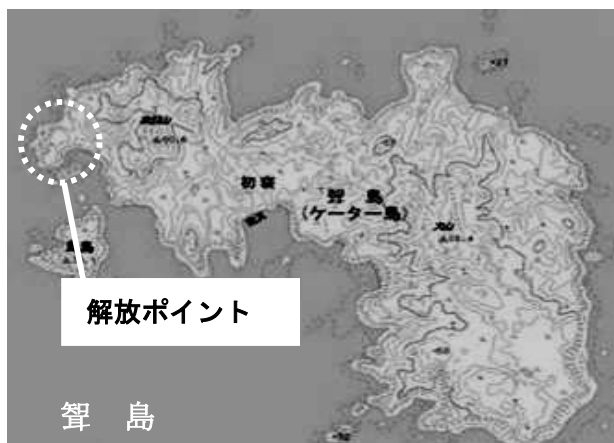
その後、ヘリコプターから下ろしたヒナを移送用の箱に入れたままで徒歩 30 分ほどの距離を運び、予定していた地点において、15 羽全てを無事解放しました。

これから、ヒナが巣立つ 5 月下旬頃まで、(財)山階鳥類研究所の研究員が鴛島に滞在し、人工飼育を行う予定です。

※この事業は、(財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているもので、今年度が 5 か年目（最終）となります。

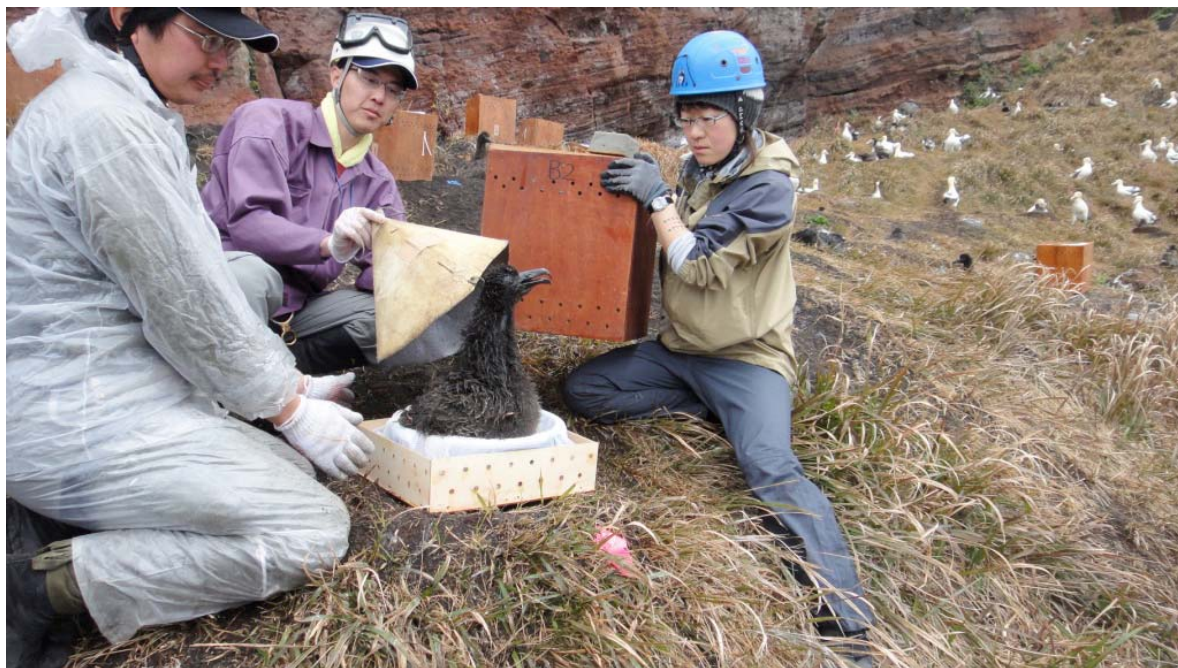
本日の経過

- 8:20 ヒナ移送用ヘリコプター八丈島 発（途中青ヶ島で給油）
- 9:51 ヒナ移送用ヘリコプター 鳥島 着
- 13:20 鳥島で捕獲したヒナ 15 羽を載せたヘリコプターが鳥島を離陸
- 14:41 " " 鴛島に到着
- 16:20 解放ポイントにおいて、ヒナ 15 羽を無事解放



<現地写真>

【伊豆諸島鳥島での輸送の様子】



【小笠原群島聳島での放鳥の様子】



写真提供：(財) 山階鳥類研究所

<参考>

○アホウドリについて

アホウドリ (*Diomedea albatrus*) ミズナギドリ目アホウドリ科
絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2006)

分布及び個体数

- ・繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ。(なお 2011 年 1 月に北太平洋のミッドウェー環礁で、鳥島生まれのアホウドリのつがい抱卵する卵が孵化した)。
- ・非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・1949 年の調査で 1 度絶滅宣言が出されたが、1951 年に約 10 羽が鳥島で再発見された。
- ・減少要因は、1890～1900 年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

形態及び生物学的特性

- ・成熟個体で全長が 84～94cm。
- ・繁殖活動は 10 月～翌年 5 月。
- ・7 歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。

保護の対策

- ・種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定 (平成 5 年)
- ・国の特別天然記念物

写真



繁殖ペア(手前はクロアジアホウドリ)



求愛ダンス



巣立ち直前のヒナ(5月)



給餌

○これまでの経過

<平成19年>

3月～6月 近縁種のクロアシアホウドリによる飼育試験を実施

<平成20年>

2月19日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ10羽（雄4羽、雌6羽）を、ヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月19日～25日 ヒナの巣立ち

5月～9月 人工衛星追跡を実施し、追跡できた4羽がベーリング海へ到達。聳島の飼育ヒナと鳥島の野生ヒナの巣立ち後の行動に大きな違いは見られなかった。

<平成21年>

2月5日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄10羽、雌5羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月11日～25日 ヒナの巣立ち

<平成22年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄11羽、雌4羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月18日～29日 ヒナの巣立ち

<平成23年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄8羽、雌7羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

2月10日 平成20年に巣立ちしたヒナ（3歳、雄）の聳島への帰還を確認

5月12日～25日 ヒナの巣立ち